

やまだの保育

2011 年 保育士試験（筆記試験） 問題・正答・「やまだの保育」の解説
＝ (3) 発達心理学・精神保健 編 ＝

掲載日：2011 年 10 月 1 日

- ★ 問題文は、「やまだの保育」による複製であり、番号や数値等の表記を一部加工しています。
- ★ 筆記試験の問題・正答・解説の構成は、以下の通りです。
 - (1) 社会福祉編, (2) 児童福祉編, (3) 発達心理学・精神保健編, (4) 小児保健編,
 - (5) 小児栄養編, (6) 保育原理編, (7) 教育原理・養護原理編, (8) 保育実習理論編
- ★ 全国保育士養成協議会は、以下を「不適切問題」として発表しました。(2011 年 9 月 20 日現在)
 - ① 小児保健: 問 7
(理由)「選択肢④が曖昧な表現であることから、受験者全員を正解とします。」
 - ② 小児保健: 問 14
(理由)「選択肢③が曖昧な表現であることから、受験者全員を正解とします。」

(3) 発達心理学・精神保健 編 (各 20 問)

発達心理学(10 問)

問 1

次の【I群】の記述と【II群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい

【I群】

- A. 発達の手度や方向は子どもによって異なる。
- B. 学習の成立や能力の発達には適した時期がある。
- C. 子どもは環境に影響されるだけではなく、周囲の環境を変化させつつ発達する。

【II群】

- ア. 敏感期
- イ. 相互作用
- ウ. 個人差

(組み合わせ)

ABC

- ① アイウ
- ② アウイ
- ③ イアウ

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

④ウアイ

⑤ウイア

【正答】

④: × × × ○ ×

【「やまだの保育」の解説】

A: 発達速度や方向は子どもによって異なる＝ウ: 個人差

・その他、発達には順序性があり、一定の順序で進行し、順序が乱れたり、飛躍したりする場合には、発達上に何らかの問題・異常があると考えられています。

B: 学習の成立や能力の発達には適した時期がある＝ア: 敏感期

・逆に、ある学習が成立するための期間を逃すと学習が不可能となる期間のことを、「臨界期」といいます。

C: 子どもは環境に影響されるだけでなく、周囲の環境を変化させつつ発達する＝イ: 相互作用

・子どもは、環境との相互作用によって、発達に必要な経験を積み重ねていくと言われます。発達を促すためには、活動の展開によって柔軟に変化し、幼児の興味や関心に応じて必要な刺激が得られるような応答性のある環境が必要であるとされています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 2

次の【I群】の人名と【II群】の事項を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

A. スキナー (skinner,B.F)

B. ブルーナー (bruner,J.S)

C. バンデューラ(bandura,A)

【II群】

ア. プログラム学習

イ. 社会的学習理論

ウ. 精神分析理論

エ. 発見学習

(組み合わせ)

ABC

①アイウ

②アエイ

③イエウ

④エアイ

⑤エイウ

【正答】

②: × ○ × × ×

【「やまだの保育」の解説】

A: スキナー＝ア: プログラム学習

・アメリカの心理学者スキナーは、理論化したオペラント条件づけの教育的応用であるプログラム学習およびこの学習理論に基づいた問題提示装置であるティーチング・マシンを開発しました。スキナーの学習プログラムには、①自己ペースの原理、②積極的反応の原理、③学習者検証の原理、④即時フィードバックの原理、⑤スモール・ステップの原理、⑥フェーディングの原理が取り入れられています。スモールステップを原理とした階段を一步一步上がるようなその特徴から、リニアプログラムといわれています。

B: ブルーナー＝エ: 発見学習

・「発見学習」は、学習者自身が探求し、課題に対する回答を見出したり、新しい知識や概念を発見・構築したりするように導く教育方法であり、アメリカの心理学者ブルーナーが提唱しました。良くも悪くも、デューイとともに、わが国の戦後教育に大きな影響を与えた人物であると言われています。

C: バンドューラ＝イ: 社会的学習理論

・「観察学習」は、カナダの心理学者バンドューラが「社会的学習理論」を提唱する上で中心となった学習であり、他者の行動を観察して、行動パターンを学習することで、「モデリング」ともよばれます。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 3

次の【I群】の用語と【II群】の記述を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A. 共同注意(ジョイント・アテンション)
- B. 社会的参照
- C. 心の理論
- D. 自尊心

【II群】

- ア. 行動の達成の成功や失敗の原因を推論する過程。
- イ. 自分自身を基本的に価値あるものとする全般的な評価。
- ウ. 1歳前後の子どもが、どう行動すべきかについて、大人の感情的サインから読み取ろうとすること。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

- エ. 視線や指さしについて、何を見たり、何を指しているかを相互了解すること。
オ. 他者の内面において、自分の知っていることと異なる信念があるとわかること。

(組み合わせ)

ABCD

- ①イウオア
②ウアエオ
③ウエアイ
④エウアオ
⑤エウオイ

【正答】

⑤: × × × × ○

【「やまだの保育」の解説】

A: 共同注意(ジョイント・アテンション)=エ: 視線や指さしについて、何を見たり、何を指しているかを相互了解すること。

・視線や指さしにより、他者(相手)の注意が向かう対象を同定・同調することは、次の新たなはたらきかけを生み、乳児の未熟な対人的自己の発生・成長を促します。共同注視ともよばれ、生後6か月ごろから始まるとされています。

B: 社会的参照=ウ: 1歳前後の子どもが、どう行動すべきかについて、大人の感情的サインから読み取ろうとすること。

・1歳前後の子どもでは、行動決定に迷う曖昧な状況下において、親(大人)の表情から承認を求めながら行動するといわれています。情緒発達・表出には、親(大人)の影響が大きい。

C: 心の理論=オ: 他者の内面において、自分の知っていることと異なる信念があるとわかること。

・心の理論(Theory of Mind)は、自分や、他者の行動を予測・説明したりするときに使われる。ほぼ幼児期に形成されるとされています。

D: 自尊心=イ: 自分自身を基本的に価値あるものとする全般的な評価

・自尊心(Self-esteem)が極端に低い場合には、心理学的な障害の可能性が疑われ、特にうつ病に特徴的であるとされています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問4

次の文は、胎児期の発達に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 胎児は、外界からの音刺激を受けて、体を動かすことがある。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

B. 胎児は、指しゃぶりといった反射行動をすでに始めている。

C. 胎児は、すでに味覚刺激を弁別している。

(組み合わせ)

ABC

①○○○

②○○×

③○××

④×○×

⑤××○

【正答】

①:○××××

【「やまだの保育」の解説】

A:○

・胎児は、胎盤を通じ、生きていくために必要なものを母体から受け取るだけでなく、母親の語りかけなど、外界からの音刺激を受け、内耳は妊娠 24 週ごろから機能し、体を動かしたり、指しゃぶりといった反射行動をすでに始めています。また、胎児期から、母子・父子の相互関係は、始まっており、母体の精神的な安定も重要になります。

B:○

・上記Aの解説を参照してください。

C:○

・味覚は味蕾で感じ取られるが、味蕾は妊娠 8 週目ぐらいから現れ始めて、胎児は、すでに味覚刺激を弁別していると理解されています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 5

次の文は、人とかかわりの発達についての記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①学童期には、子どもは養育者との関係とともに、養育者以外の人をも大事な中心人物として関係を築くようになる。

②トレヴァーセン(Trevarthen,c.)は、情動的な一体関係が成り立つ一次的間主観性と、相手の意図を把握する二次的間主観性を区別した。

③養育者との関係は、間接的に子どもの仲間関係へ影響を及ぼし、安定した愛着関係を形成している養育者は、子どもの仲間関係を援助する傾向がみられる。

④エインズワース(Ainsworth,M.D.S)の愛着のAタイプ(回避型)とCタイプ(アンビバレント型)であった

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

乳児は、その後の社会的適応が難しく必ず問題が生じる。

⑤ マーシア(Marcia,J.E.)によれば、自我同一性地位における早期完了(フォークロージャー)型は、自分の目標と親の目標との間に不協和がない。

【正答】

④: ○○○×○

【「やまだの保育」の解説】

①: ○

・家族との関係は、強い絆として存在しながら、人間関係は拡大していきます。

②: ○

・乳児は、養育者の関心が自分に向いているかどうかを敏感に感じ取る能力を、早期から発達させています。トレヴァーセンは、生後 5, 6 週間からみられるものを第 1 次間主観性、生後 6 か月以降にみられるものを第 2 次間主観性としました。

③: ○

・適切な仲間関係をもてれば、遊びやけんかを中心とする他者とのやりとりを通じ、多くのことを体験的に学び、社会的な発達が促進される、と理解されています。

④: ×

・エインズワースは、ストレンジ・シチュエーション法を開発し、母と子を分離・再会させ、その時の反応(愛着)を分析しました。その結果、親子間の相互作用行動から、子どもを、A タイプ(回避型)、B タイプ(安定型)、C タイプ(アンビヴァレント型)の 3 つに分類しました。A タイプ(回避型)とは、子どもが親がいようとまいと、関係なく、関わりをもたないようにするタイプで、B タイプ(安定型)とは、母親を安全基地とし、行動する。母親がいなくなると、泣いて探が、再会できると寄り添い、なぐさめてもらえば、すぐに機嫌がよくなるタイプで、C タイプ(アンビヴァレント型)とは、再開場面で、容易になだめることができず、親に接近するが抱き上げられることに抵抗するなどのアンビバレントな行動を特徴とするタイプです。乳児期の親子関係がその後の人生に影響を及ぼすことは確かですが、A タイプや C タイプのように、良好な愛着関係が築けなかった場合でも、その後の社会適応に問題があるかどうかは明確ではないとされている。したがって、設問の「社会的適応が難しく必ず問題が生じる」は誤りです。

⑤: ○

・マーシアは、自我同一性(アイデンティティ・ステイタス)の問題への対処の仕方を、(1)同一性達成型(Identity Achievement)、(1)モラトリアム型(Moratorium)、(3)早期完了型(Foreclosure)、(4)同一性拡散型(Identity Diffusion)の 4 つに類型化しました。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 6

次の文のうち、「保育所保育指針」第 2 章「子どもの発達」の 2「発達過程」の(7)「おおむね 5 歳」の一部として正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

- A. 運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間とともに活発に遊ぶ。
 B. 役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。
 C. 他人の役に立つことを嬉しく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。
 D. 異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。

(組み合わせ)

ABCD

- ①○○○×
 ②○×○○
 ③×○××
 ④××○○
 ⑤××××

【正答】

②: ×○×××

【「やまだの保育」の解説】

◎「保育所保育指針」-「第2章 子どもの発達」-「2. 発達過程」-「(7)おおむね5歳」において、「基本的な生活習慣が身に付き、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間と共に活発に遊ぶ。言葉によって共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動することが増える。さらに、遊びを発展させ、楽しむために、自分たちで決まりを作ったりする。また、自分なりに考えて判断したり、批判する力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。他人の役に立つことを嬉しく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。」と定められています。(p43)

A: ○

・上記の通りです。

B: ×

・「保育所保育指針」-「第2章 子どもの発達」-「2. 発達過程」-「(8)おおむね6歳」において、「全身運動が滑らかで巧みになり、快活に跳び回るようになる。これまでの体験から、自信や、予想や見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ、意欲が旺盛になる。仲間の意思を大切にしようとし、役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。思考力や認識力も高まり、自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心も深まっていく。身近な大人に甘え、気持ちを休めることもあるが、様々な経験を通して自立心が一層高まっていく。」と定められています。したがって、設問の「おおむね5歳」は

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

「おおむね 6 歳」が正しい。

C:○

・上記の通りです。

D:○

・上記の通りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 7

次の文は、「保育所保育指針」第2章「子どもの発達」の 2「発達過程」の記述である。A～Dを発達の順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかるようになる。
- B. 指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
- C. 喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。
- D. 語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。

(組み合わせ)

- ①A→D→C→B
- ②B→A→C→D
- ③C→A→B→D
- ④C→A→D→B
- ⑤D→C→B→A

【正答】

③: × × ○ × ×

【「やまだの保育」の解説】

◎「保育所保育指針」-「第 2 章 子どもの発達」-「2. 発達過程」の構成は、以下の通りです。(p30～)

- (1) おおむね6か月未満
- (2) おおむね6か月から1歳3か月未満
- (3) おおむね1歳3か月から2歳未満
- (4) おおむね2歳
- (5) おおむね3歳
- (6) おおむね4歳
- (7) おおむね5歳
- (8) おおむね6歳

③: O(C→A→B→Dの順)

A:

・「大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる」は、「(2)おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満」に該当します。

・「座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。また、身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。」と定められています。

B:

・「指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める」は「(3)おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満」に該当します。

・「歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。また、大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。」と定められています。

C:

・「喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される」は、「(1)おおむね 6 か月未満」に該当します。

・「誕生後、母体内から外界への急激な環境の変化に適応し、著しい発達が見られる。首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。」と定められています。

D:

・「語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる」は、「(4)おおむね 2 歳」に該当します。

・「歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。また、排泄の自立のための身体的機能も整ってくる。発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。盛んに模倣し、物事間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。」と定められています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 8

次の文は、道徳判断の発達に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A. 子どもの道徳判断は、既存の道徳を受容する自律的判断から、仲間との対等の関係の中でルールをつくり出そうとする他律的判断へと移行すると、ピアジェ(Piaget,J.)は提唱した。

B. コールバーグ(Kohlberg,L.)は、道徳性を正義と公平さであると規定し、その観点にたつて児童から成人をも含む道徳性の発達段階を提起した。

C. 役割取得とは、他者の立場に置かれた自分を想像することにより、他者の意図や感情を推論することであり、道徳判断の発達とも関連する。

D. アイゼンバーグ(Eisenberg,N.)は、向社会的な道徳判断の発達段階を提唱し、すでに幼児期において、内面化された価値によって他者の尊厳を守ろうとする傾向があるとした。

(組み合わせ)

A BCD

①○○×○

②○××○

③○×○×

④×○○○

⑤×○○×

【正答】

⑤: × × × × ○

【「やまだの保育」の解説】

A: ×

・ピアジェは、子どもの道徳的判断に関して、「他律的判断」から「自律的判断」へという発達を提唱しました。したがって、設問の「自律的判断」と「他律的判断」の用語の位置が逆になっていますので、誤りです。

B: ○

・コールバーグは、ピアジェ理論をより進展させ、3 レベル(前習慣的水準、習慣的水準、後習慣的・自発的水準)と6 段階の「道徳性発達段階」を提唱しました。

C: ○

・役割取得とは、「他者の視点に立って、他者の感情や思考を推し量ること」と定義されており、コールバーグは、役割取得能力は、道徳的判断に影響を及ぼす重要な要素であるとし、役割取得能力の発

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

達が道徳性の獲得には不可欠であるとしてきました。

D: ×

・アイゼンバーグは、向社会的行動を、「他の個人や集団を助けようとしたり、こうした人々のためになることをしようとしてなされた自主的な行為」と定義しています。アイゼンバーグは、向社会的道徳的判断の発達段階を提示し、「強く内面化された段階」は最終段階であり、中・高校生でも少数で、小学生にはまったく見られないとしています。したがって、設問の「幼児期」以降の記述は、誤りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 9

次の文は、遊びの発達についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. ピアジェ(Piaget,J.)によれば、遊びはその時点での発達の水準を反映した活動と考えている。
- B. イメージを共有できるようになると、役割分担が生じたり、持続時間が長くなったりして、遊びが豊かになる。
- C. 遊びの中で生じる対立やけんかを経験することによって、ルールをつくったり、変更したりするなど社会的スキルを身につけていく。
- D. パーテン(Parten,M.B.)の遊びに関する研究では、一人遊びを高い発達水準とみなした。

(組み合わせ)

ABCD

- ①○○○×
- ②○○××
- ③○×○×
- ④×○××
- ⑤××○○

【正答】

①: ○××××

【「やまだの保育」の解説】

◎あそびとは、自発的で、自由な行動です。幼児期の生活は、あそび中心であり、あそびを通して、ぶつかりあい問題を解決していくことで、経験的に学び、自己表現だけでなく、人の気持ちもわかるようになります。また、ルールを作ったり、変更したりする社会的スキルや、その他教育面・身体面・道徳面等の様々な発達を促したり、情緒面での安定をもたらします。あそびは、全人的な発達に大きく関わっているといえます。

A:○

・スイスの児童心理学者ピアジェは、子供の遊びを発達と関連させて、遊びを「感覚運動的遊び(1歳半頃まで、感覚・機能を働かす)」「象徴的遊び(5～6歳頃まで、ごっこ、想像、空想、模倣遊び)」「規則的(ルール)遊び(7歳頃から)」の3つに分類しました。

B:○

・4歳頃になると、ごっこ遊びもさらに発展・充実し、子ども同士の話し合いによるイメージの共有や協力、役割分担が見られ、ごっこ遊びが劇遊び等に発展する場合もあるとされる。4歳頃は発達の質的転換期として位置付けられ、個人の力においても集団的力においても大きく飛躍の年と言われる。

C:○

・幼児期の仲間集団での遊びやけんかを中心とした相互交渉が、子どもの社会的能力を発達させると言われる。子どもの不登校やいじめが、仲間関係・対人関係をめぐる問題がその要因の一つであることが指摘されています。上記の解説を参照してください。

D:×

パーテンは、遊びに関する研究において、遊びを「傍観」、「ひとり遊び」、「平行遊び(他児のそばで類似した玩具で遊ぶがやりとりがない)」、「連合遊び(同じ一つの遊びをし、やりとりがある)」、「共同遊び(共通の目標があり、役割が分化)」の5つの型に分類し、「共同遊び」が高い発達水準とみなしました。したがって、設問の「一人遊び」は誤りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 10

次の文は、子どもの認知に関する記述である。(A)～(D)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

子どもは自分の思考過程を(A)し、結果を予測したり分析したりするようになる。これを(B)と呼んでいる。このような(B)は、(C)くらいから発達が始まり、次第に自分の思考を振り返ることが可能となる。こうした態度は、学校の学習において多く求められるようになり、例えば、自分で検算して間違いを見いだすことが出来るようになると、計算することがおもしろくなるといった(D)に結びついていく。

【語群】

ア. モニター イ. メタ・コミュニケーション ウ. 内発的動機づけ

エ. メタ認知 オ. 外発的動機づけ カ. 昇華

キ. 学童期後半 ク. 幼児期後半

(組み合わせ)

ABCD

①アイクオ

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

- ②アエクウ
- ③カイキウ
- ④カイキオ
- ⑤カエキイ

【正答】

②: × ○ × × ×

【「やまだの保育」の解説】

A: ア・モニター

・モニターとは、自分の行動や考え方などを、別の次元から眺めて認識すること、または、自らを見つめ自分の行動を客観化することです。

である。認知活動または現象についての認知の際の吟味、規制、調整、判断等の行為は、「認知モニター」と言われます。

B: エ・メタ認知

・「メタ認知」とは、自分自身の認知プロセスについての知識や信念のことである。われわれが結果に関する知識のフィードバックを自己以外の外部から得られなくても、正しい思考をしているかどうかを自ら吟味できるのは、この「メタ認知」のおかげといえます。また、「自分は何が分からないかが分かる」のが「メタ認知」です。

C: ク・幼児期後半

・メタ認知ができるようになるのは、5歳後半であり、自分の中にもう1人の自分が誕生するということだとされています。

D: ウ・内発的動機づけ

・外からの原因によるのではなく、自分の興味から勉強する場合のように、活動することそれ自体が動機となって、その活動や行動が引き起こされ、方向づけられ、持続させられる過程のことを「内発的動機づけ」といいます。一方、賞罰といったものにより強いられて勉強するといった、外からの原因によってある行動が引き起こされ、方向づけられ、持続させられる過程のことを「外発的動機づけ」といいます。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

精神保健(10問)

問 1

次のA～Eの記述のうち、症候群とその主たる特徴として適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. アスペルガー症候群・・・被害妄想
- B. ウェスト症候群・・・多動

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

- C. ド・ラ・トゥレット症候群・・・夜尿
 D. レット症候群・・・女兒にみられる
 E. レンノックス・ガストー症候群・・・てんかん

(組み合わせ)

ABCDE

- ① ○○○○×
 ② ○×○×○
 ③ ○××○○
 ④ ×○○××
 ⑤ ×××○○

【正答】

⑤: ××××○

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

A: ×

・アスペルガー症候群は、関心と活動の範囲が限局的で常同反復的であるとともに、自閉症と同様のタイプの相互的な社会的関係の質的障害によって特徴づけられ、著しく不器用であることが普通であり、男児に多く発症します。被害妄想は、統合失調症などにみられる症状です。

B: ×

・ウェスト症候群は、てんかん発作で、発作型ではなく1つの臨床症候群であり、乳幼児にみられる強直性、脱力性、ミオクロニー性などの発作で、それらが合併した発作を示すこともあり、「乳児けいれん」とも呼ばれます。多動は、多動性障害にみられる症状です。

C: ×

・ド・ラ・トゥレット症候群(多発運動性チック障害)は、1885年にトゥレットが「反響言語、汚言、さまざまな運動性チック」をはじめて提示しました。10000人に4~5人汚発生頻度といわれますが、重篤な場合には薬物療法が必要です。夜尿は、排泄障害(遺尿症)にみられる症状です。

D: ○

・レット症候群は、1965年にレットが報告し、生後6か月は正常な発達を遂げたあと荒廃に到る症候群です。女兒のみが発症し、原因不明の病態です。ねじるような「もみ手・手洗い」の特異的な常同運動、過呼吸、目的をもった手の運動の消失が特徴的であり、重度の精神遅滞を伴います。

E: ○

・レンノックス・ガストー症候群は、てんかん発作で、発作型ではなく1つの臨床症候群であり、ウェスト

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

症候群よりも年長の小児にみられます。発作は強直性が多いが、脱力性、非定型欠神(けっしん)なども出現することがあります。発作間欠期の脳波では、遅棘(ちきょく)徐波が認められます。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 2

次の記述のうち、診断が確定されるのが主として学童期以降であるものを○, そうでないものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 学習障害
- B. 反応性愛着障害
- C. 行為障害
- D. 精神遅滞
- E. 小児自閉症

(組み合わせ)

ABCDE

- ①○○○××
- ②○×○××
- ③○××○○
- ④×○○○×
- ⑤×○×○○

【正答】

②: ×○×××

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

A: ○

・学習(学習能力)の特異的発達障害は、学習の習得について、特異的で重大な障害があることが明らかな障害群からなり、「①特異的読字障害(多くは綴字困難が認められ、一般的に言語の障害が先行し、就学では問題行動や攻撃性と合併しやすい、以前用いられた「発達性失語症」の呼称は使用しない)、②特異的綴字(書字)障害(読字困難の既往があってはならない、口頭・書字両方とも遅れる、③特異的算数障害(精神遅滞や不適切な学校教育では説明されない算数力の特異的障害が含まれ、加減乗除のような基本的な計算力と関連する)」があります。

B: ×

・小児期の反応性愛着障害は、5歳前後に形成された養育者との異常な関係パターンであり、虐待を

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

含め、深刻な養育環境の結果として起こります。したがって、設問の「学童期以降」は誤りです。

C:○

・行為障害は、過度のけんかやいじめ、動物や他人への残虐行為、所有物へのひどい破壊、放火、盗み、繰り返す嘘をつく、学校のずる休みと家出、度重なるひどいかんしゃく、反抗的で挑戦的な行動、持続的な反抗などです。行為障害は、将来、「非社会的人格障害」(反社会的人格障害と同義語)に発展することもあります。

D:×

・精神遅滞は、乳幼児から現れる知的能力の発達遅延で、その後の学習や社会適応に障害があります。出生前、出生時、出生後のさまざまな原因で起こります。精神遅滞の診断は、「①合併症も含めた精神医学的・身体的状態像、②家族機能の安定性や子どもの認知能力の程度などの機能の把握、③子どもの教育状況、④情緒的および行動的問題の有無などの総合的な評価」が必要です。したがって、設問の「学童期以降」は誤りです。

E:×

・小児自閉症(自閉症)では、一般にIQ70以上で、5歳までにコミュニケーション可能な言葉を用いる子どもは予後がよいとされています。なお、20%が就労しているといわれるが、通常の自立した生活を営める者は1~2%に過ぎないともいわれています。自閉症の症状は、出生から遅くとも36か月以内に出現します。したがって、設問の「学童期以降」は誤りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問3

次の文は、子どもの疾患に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 話の速度が速く流暢さを欠き、反復や口ごもりのないものの、話の明瞭さを損なうほどのものを吃音という。
- B. 選択性緘黙症は、特定の話題になると黙ってしまうのが特徴である。
- C. 夜驚症は、てんかんの一種である。
- D. 重症で多発性の運動チックと音声チックを伴うものをド・ラ・トウレット症候群という。

(組み合わせ)

ABCD

- ①○○○×
- ②○×○○
- ③×○○○
- ④×○×○
- ⑤×××○

【正答】

⑤: × × × × ○

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

A: ×

・吃音は語音または音節の頻繁な反復や延長で起こる会話の流暢さの障害で、「わわわわたし」などとなります。なお、話し方で話の中間または終わりの音節をけいれん様に、「わたしたしたしたし」などと反復する発語障害を「語間代」といい、アルツハイマー病で典型的にみられます。

B: ×

・選択性緘黙は、家庭で流暢に話せるのに、学校などの緊張した状況下では話さなくなるという就学前後の障害です。

C: ×

・睡眠時驚愕症(夜驚症)は、絶叫、激しい体動、自律神経性興奮など夜間に極度の恐怖とパニックの状態を呈する。負傷することもあり、覚醒後その間のことは記憶していません。睡眠時驚愕症は、睡眠時遊行症と合併することが多く、てんかんではなく、非器質性睡眠障害の一種です。

D: ○

・音声性および多発運動性チック障害(ド・ラ・トゥレット症候群)は、1885年にトゥレットが「反響言語、汚言、さまざまな運動性チック」をはじめて提示しました。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 4

次の記述のうち、一般的に知的障害をとまなうことが多いものを○、多くはないものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. アスペルガー症候群
- B. ダウン症候群
- C. レット症候群
- D. 多動性障害

(組み合わせ)

ABCD

- ① ○○○○
- ② ○○××
- ③ ○×○○
- ④ ×○○×

⑤×○×○

【正答】

④: ×××○×

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

A: ×

・アスペルガー症候群は、自閉症の3つの特徴のうち、2つの特徴(対人関係の障害とパターン化した興味や活動)を有し、コミュニケーションの目立った障害がないとされている障害です。言葉の発達の遅れがない点が自閉症と異なり、知的発達に遅れのある人はほとんどいないとされています。

B: ○

・ダウン症候群は、発症頻度は1000人に1人であるが、35歳以上の高年妊婦で頻度が高い。最も多いのは、常染色体21番の異常であり(94%が21トリソミー、知的障害は中等度が多く、療育による影響を受け、社会適応はよいが、運動・社会的発達と比べ言語表出が遅れる特徴があります。

C: ○

・レット症候群は、初期に正常に近い発達を遂げたあと、獲得していた繊細な手先の運動技能や言葉が完全に喪失します。ねじるような「もみ手・手洗い」の特異的な常同運動、過呼吸、目的をもった手の運動の消失が特徴的で、重度の知的障害を伴います。

D: ×

・多動性障害の特徴は、全般的に知的な発達に遅れはなく、情緒の不安定さで気分や行動の易変も特徴的で、ささいなことに腹を立てやすく、事前に考えないで唐突に行動し、授業中に急に立ち上がったります。約75%は反抗的で攻撃的な行動をとりやすい傾向を示します。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問5

次の文は、自閉症が疑われる児童に対する質問である。

「AとBが部屋で遊んでいます。Aはボールをかごの中に入れて部屋を出て行きました。残ったBはそのボールをかごから出して別の箱の中に入れました。Aが部屋に戻ってきました。そして、Aはボールを出そうとしました。さて、Aはどこを最初に探すでしょうか？」

この質問に関する次の記述のうち、最も適切な記述を一つ選びなさい。

- ①実行機能の障害を調べる検査である。
- ②知能の障害を調べる検査である。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

- ③中枢統合機能の障害を調べる検査である。
- ④心の理論の障害を調べる検査である。
- ⑤コミュニケーション障害を調べる検査である。

【正答】

④: × × × ○ ×

【「やまだの保育」の解説】

・広汎性発達障害(PDD:自閉性障害,アスペルガー障害,特定不能の広汎性発達障害)は,(1)対人的相互反応における質的障害(相手の気持ちがあかぬ,場にあった行動がとれない),(2)コミュニケーションの障害(言葉の使用の誤り,会話をつなげない),(3)行動,興味,活動が限定して反復・常同的,の3主症状が特徴です。また,注意欠陥/多動性障害(AD/HD)は,(1)多動,(2)衝動性,(3)不注意の3主症状が特徴です。さらに,学習障害(LD)は,読み,書き,算数,協調運動などの学習に関する諸機能が知能指数と不釣り合いに低いというのが特徴です。

・広汎性発達障害(PDD)では,心の理論の障害,中枢性統合の欠陥,実行機能の障害などが関与しているとされています。また,注意欠陥/多動性障害(AD/HD)では,ワーキング・メモリーの障害をはじめとする実行機能障害,神経系の機能不全などの多様な脳機能障害仮説が提示されています。

①: ×

・実行機能の障害とは,作業を順序立てて効率よく行うことができなくなることです。上記の解説を参照してください。

②: ×

・知能の障害は,精神遅滞と認知症に区分されます。

・知能検査には,「①ビネー式知能検査,②WAIS,③WISC,④ペンダ―ゲシュタルトテスト,⑤記銘力検査,⑥改訂長谷川式簡易知能スケール(HDS-R)など」があります。

③: ×

・中枢性統合機能とは,一貫した意味ある全体を作り出そうとする人間固有の能力であり,自閉症的な傾向がある者の感情認知の困難の背景には,中枢性統合機能の弱さがあると指摘されています。上記の解説を参照してください。

④: ○

・設問は,「サリーとアンの課題」と言われるもので,健常児では4~6歳でほとんどが「かごの中」(正解)するが,心の理論の発達が遅れている場合には,「箱」と答えます。「自分はある事実を知っているが,それを知らない他者はどう考えるか?」を問うものです。上記の解説を参照してください。

⑤: ×

・上記の解説を参照してください。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

問 6

次の【I群】の患者の訴えと【II 群】の症状を結びつけた場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A. 「手が汚れていると思えて仕方がないんです。」
- B. 「頭の中で私の悪口を話し合っている声が聞こえるんです。」
- C. 「尾行されている気がしてならないんです。」
- D. 壁のシミをさして、「ほら、あそこに虫がいるでしょ。」
- E. 「私の考えが抜き取られてしまうんです。」

【II 群】

- ア. 錯視
- イ. 思考奪取
- ウ. 幻覚
- エ. 強迫観念
- オ. 追跡妄想

(組み合わせ)

A BCDE

- ①アイオエウ
- ②アウエイオ
- ③エアオウイ
- ④エイオウア
- ⑤エウオアイ

【正答】

⑤: × × × × ○

【「やまだの保育」の解説】

A: 「手が汚れていると思えて仕方がないんです。」=エ: 強迫観念

・強迫観念は自分でもばかばかしい不合理な考えだとわかっていながら、自分の意思に反してその考えが絶えず浮かんで来て、いくら考えまいとしても頭から離れないとき、強迫観念あるいは強迫思考という。強迫状態は、強迫性障害、統合失調症、うつ病で見られる。

B: 「頭の中で私の悪口を話し合っている声が聞こえるんです。」=ウ: 幻覚

・幻覚には、幻聴、幻視、幻触、幻嗅、幻味などがある。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

C:「尾行されている気がしてならないんです。」=オ:追跡妄想

・統合失調症などにおける症状で、他人や何かに悪意をもって追跡、監視されていると思う妄想で、被害関係妄想の一種である。

D:壁のシミをさして、「ほら、あそこに虫がいるでしょ。」=ア:錯視

・たとえば、レビー小体型認知症では、視覚性の認知障害として、実在しないものが見えるという視覚性の幻覚、特に「幻視」が現れることがしばしばです。それを「錯視」と言う人もいますが、一般的ではないと思います。視覚性の認知障害は暗くなると現れやすくなります。

E:「私の考えが抜き取られてしまうんです。」=イ:思考奪取

・統合失調症における精神症状のうち、シュナイダーの一級症状は、①考想化声、②対話形式の幻聴、③身体への影響体験、④思考奪取、⑤考想伝播、⑥妄想知覚、⑦させられ体験、である。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 7

次の文は、抜毛症(癬)に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 爪かみや皮膚炎を合併することが少なくない。
- B. 妄想や幻覚に対する反応として起こる。
- C. 円形脱毛症や頭部白癬との鑑別が必要である。
- D. ペットや人形の毛や、セーターの毛が抜毛の対象になることがある。

(組み合わせ)

A BCD

①○○○○

②○○○×

③○×○○

④○×○×

⑤×××○

【正答】

③: ××○××

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

◎「習慣および衝動の障害」には、患者自身および他人の利益を損なう反復する行為によって特徴づけられ、患者はその行動が統制できないと述べます。①病的賭博、②病的放火(放火癬)、③病的窃盗(窃盗癬)、④抜毛症(抜毛癬)、があります。

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

A:○

・指しゃぶりや爪噛みあるいはチックなどを合併したり、交互に現れることもあります。

B:×

・抜毛症(抜毛癖)は、心理的・精神的ストレスに要因があるとされ、妄想や幻覚に対する反応として起こるものではありません。

C:○

・10歳前後の子どもに多くみられ、最初のうちは抜け毛の原因が円形脱毛症など他の原因と見誤りやすいのが特徴です。

D:○

・ぬいぐるみ・毛布・衣服・ペットの猫などの毛をむしるとるという抜毛症(抜毛癖)もあります。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 8

次の文は、小児期の分離不安障害に関する記述である。症状の一つとして適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 大切な人を失ってしまうのではないかという恐れをもつ。
- B. 迷子になることへの恐れをもつ。
- C. 愛着の対象となる人から離されるのを予期したときに腹痛を繰り返す。
- D. 持続的に登校を嫌がり、あるいは拒否し続ける。

(組み合わせ)

A B C D

- ① ○ ○ ○ ○
- ② ○ ○ × ○
- ③ ○ × ○ ○
- ④ × × ○ ○
- ⑤ × × × ×

【正答】

①: ○ × × × ×

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10の分類による解説

◎「F90.3 小児期の分離不安障害」の診断ガイドラインは、以下の通りです。

・診断のカギとなるのは、愛着の対象(通常両親あるいは他の家族成員)から別れることを中心とした

<http://www.yamada-no-hoiku.com>

やまだの保育

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

過度の不安は次のような形をとる。

- (a) 強く愛着を持っている人に災難が降りかかるという非現実的な、現実離れした心配に心を奪われる。あるいは彼らが去って戻らないだろうという恐れ
- (b) 迷子、誘拐、入院、あるいは殺されるという災難によって、強く愛着を持っている人から引き離されてしまうという非現実的な心配に心を奪われること。
- (c) 分離の恐れのために、(学校での出来事を恐れるような他の理由からでなく)登校を嫌がり、あるいは拒否し続ける。
- (d) 強く愛着を持っている人が近くか隣にいないと、眠るのをいやがり、あるいは拒否し続けること。
- (e) 1人で家にいること、あるいは強く愛着を持っている人なしで家にいることへの持続的で度の過ぎた恐れ。
- (f) 分離に関する悪夢を繰り返す。
- (g) 身体症状(悪心、胃痛、頭痛、嘔吐などの)が、強く愛着を持っている人からの分離を伴う状況のさいに繰り返し起こること、たとえば家を離れて学校に行く場合。
- (h) 強く愛着をもっている人からの分離を予想したとき、その最中、あるいはその直後に、過度の悲嘆を繰り返すこと(不安、泣くこと、痲痺、惨めさ、無感情、あるいは社会的引きこもりとして現れる)。

A:○

・上記の診断ガイドライン「(a)」に対応します。

B:○

・上記の診断ガイドライン「(b)」に対応します。

C:○

・上記の診断ガイドライン「(g)」に対応します。

D:○

・上記の診断ガイドライン「(c)」に対応します。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 9

次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

6歳の男児。運動会の練習が始まった頃から頻繁に瞬きをするようになった。

瞬きは回数が多いだけでなく、普段よりも強くギュッと目を閉じる。この症状が1か月ほど続いたが、いつの間にか見られなくなった。

【設問】

この子どもで最も疑われる精神医学的問題を一つ選びなさい。

- ①強迫性障害
- ②チック
- ③てんかん
- ④同一性保持
- ⑤身体表現性障害

【正答】

②: × ○ × × ×

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

①: ×

・強迫性障害における強迫思考は本人の意思に反した、しばしばいやなものであるにもかかわらず、自分自身の思考として認識されます。強迫行為あるいは強迫儀式は、何度も繰り返される常同行為です。

②: ○

・チックは、目的なく突発的に生じ、不随意的に生じ、急速で反復的、非律動的な、通常は限局した筋群の運動あるいは発生であり、「単純運動性チック」は、瞬目、顎ふり、肩すくめ、しかめ顔等です。多くは5～8歳に発症し、男子に高頻度で、3～4倍多いといわれます。

③: ×

・てんかんは、発作を慢性的に反復する疾患であり、発作性脳性律動異常により生ずるものであり、律動異常部位とその広がりにより、けいれん、意識障害、自動症などさまざまです。

④: ×

・広汎性発達障害において、何かに対して非常に強いこだわりをもっていたり、想像力のつまずき(自分が知っていること以外を想像するのが難しい)としての「同一性保持」の障害です。

⑤: ×

・身体化障害は、主要な病像は多発性で繰り返し起こり、しばしば変化する身体症状であり、通常、患者が精神科医を受診するまでに数年間かかります。症状は、身体・器官系統のどの部分でも起こり、消化器系の感覚(疼痛、おくび、嘔吐、吐気など)、できものが最もよくみられます。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 10

次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

小学 2 年生の男児。幼児期に何度も迷子になった事がある。授業中いつもそわそわして先生の話

最後まで聞かずに発言してしまう。宿題や提出物を忘れることが非常に多い。人なつこく友達と遊ぶことが好きであるが、一緒に遊んでいてもすぐ飽きてしまい、一つの遊びが長続きしない。

【設問】

この子どもでもっとも疑われる精神医学的問題について、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 常同的・反復的な話し方をするのが特徴である。
- B. 親のしつけに問題のあることが多い。
- C. 有効な薬物療法がある。
- D. 想像的な遊びがきわめて苦手である。

(組み合わせ)

ABCD

- ①○○○×
- ②○○×○
- ③○×××
- ④××○○
- ⑤××○×

【正答】

⑤: × × × × ○

【「やまだの保育」の解説】

◎ICD-10 の分類による解説です。

A: ×

・アスペルガー一症候群は、関心と活動の範囲が限局的で常同反復的であるとともに、自閉症と同様のタイプの相互的な社会的関係の質的障害によって特徴づけられます。

B: ×

・多動性障害の病因は、中枢神経形に顕著で構造的な異常はないが、脳機能のさまざまな障害と関連していると想定されています。特定されていないが、遺伝的、脳損傷、神経化学的、神経生理学的、心理社会的などの多彩な要因があげられています。全体像の理解が重要です。親のしつけの問題や子どもの性格の問題ではありません。

C: ○

・多動性障害の特徴は、情緒の不安定さで気分や行動の易変も特徴的で、ささいなことに腹を立てや

すく、事前に考えないで唐突に行動し、授業中に急に立ち上がったります。約 75%は反抗的で攻撃的な行動をとりやすい傾向を示します。多動性障害は、薬物療法が中心になり、注意欠陥/多動性障害(AD/HD:DSM-IVの診断名)では、不足している神経伝達物質を増やすメチルフェニデート徐放錠(コンサータ)やアトモキセチン塩酸塩製剤(ストラテラ)が主に用いられ、不注意、多動性、衝動性などの主な症状を改善する効果があると言われてはいますが、それを処方する医師の当たりはずれが多いようにも聞きます。

D: ×

・アスペルガー症候群は、想像的・創造的な思考が難しく、同じ状態を好み、変化を嫌い、初めての行事に抵抗を示します。具体的には、ひとり遊びを好む、人とするごっこ遊びが広がりにくい、同じ遊びを繰り返す傾向が強い、行動がパターン化し融通がきかない、などにより、保育園や幼稚園では、他の子どもにあまり関心がなく、集団で遊ばない、などの特徴がみられるとされています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】